

令和元年度和裁士技能検定(2級) 学科試験解答

実施日: 令和2年3月8日
所用時間: 60分

(1) 次の5問について、各部分を寸法に応じ配分し、その名称をよく分かるように記入して裁断図を書きなさい。(裁ち切は実線・折り山等は点線で記入) (配点各問6点)

① 並幅物12m31cm(3丈2尺5寸)の反物で、本裁女物長着を下記指定寸法で追い裁ちにした。

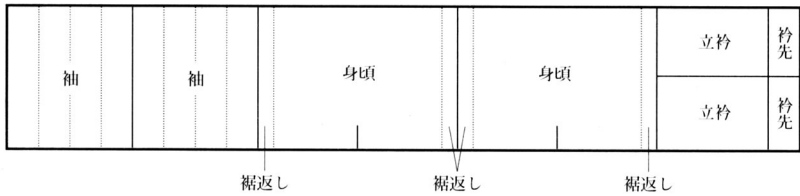
裁断図および各部の寸法と名称を記入しなさい。

身丈背より出来上がり165cm(4尺3寸5分)・袖丈出来上がり53cm(1尺4寸) 繰越2cm(5分)・裱下(衿下)出来上がり81.5cm(2尺1寸5分)・他は標準寸法とする。

(注) 袖の前後、上前身頃、上前衿、上前共衿、上前衿裾などの位置を明記すること。

後袖	前袖	後袖	前袖	後身頃	上前身頃	後身頃	下前身頃	衿 157.5cm 415	下 前裾	衿 157.5cm 415	上 前裾
57cm 150	57cm 150	57cm 150	57cm 150	172cm 455	172cm 455	172cm 455	172cm 455	共衿 95cm 250	地衿	220cm 580	上 前

② 並幅物12m(3丈1尺7寸)の反物で、本裁女物袷長襦袢を作りたい。その裁断図を記入しなさい。



③ 並幅物3.2m(8尺5寸)の裏地で、女物長着の裾廻しを裁ちたい。その裁断図を記入しなさい。

後裾	後裾	前裾	前裾	裏衿	衿先
		袖口	袖口	裏衿	衿先

④ 並幅物11.8m(3丈1尺2寸)の反物で、留袖用比翼を作りたい。その裁断図を記入しなさい。

ただし、袖は口・振とし、衿裏共布とする。

裾	裾	裾	裾	衿	地衿	共衿	振	振	残布
				衿	裏衿	袖口	袖口	口	振
						口	口	口	口

⑤ 並幅物11.4m(3丈)の反物で、男物長着の通し裏を裁ちたい。その裁断図を記入しなさい。

裏袖	裏袖	裏身頃	裏身頃	裏衿	裏衿
				裏衿	裏衿

(2) 次の各問の文章が正しい場合には○印、誤っている場合には×印を所定の位置につけなさい。(配点各問2点)

- (×) 1. 四君子模様とは松・竹・梅・蘭の模様のことである。
- (○) 2. 交織とは経糸と緯糸が異なった糸で織られた織物である。
- (×) 3. 大島紬の主な生産地は沖縄県である。
- (○) 4. 1デニールとは9000mで1gの重みのある糸のことである。
- (×) 5. レーヨンと麻は水にぬれると強くなる。
- (×) 6. 疋田や鹿の子の柄は両方とも絞り染めである。
- (○) 7. ミシン針は表示数が小さくなるほど細くなるが、針丈は変わらない。和針の表示数は前の数が小さいほど太く、後ろの数が大きいほど針丈が長くなる。
- (×) 8. 色留袖の紋は必ず五ッ紋にしなければならない。
- (×) 9. 茶屋辻模様は全体が茶色系の一色染めである。
- (○) 10. 柄裁ちをする場合、長着は上前の前身頃及び胸にポイントを置き、羽織は後身頃にポイントを置く。
- (×) 11. 鳩胸の人は、胸幅を広くするために裾下がりをもくするとよい。
- (×) 12. 太った人の長着の衿肩明きは、多くするとよいが、繰り越しは無い方がよい。
- (○) 13. 喪服の長襦袢は一般的に白色の生地を用いる。
- (○) 14. 本裁ち男女の長襦袢の着丈は、身長80%~83%くらいに決めればよい。
- (○) 15. 共衿(掛衿)を2本取る場合、仕立寸法に用布を見積もり50cm残れば取れる。
- (×) 16. 女物長着の袖付の付け違いは、前袖付けを少なくする。
- (×) 17. ①着尺一反 ②袷振袖用長襦袢一反 ③大島紬一疋のうち、②が一番短い反物である。
- (×) 18. 三ッ紋の位置は背紋と、抱紋である。
- (○) 19. 袋帯の帯丈は、ふつう4.2mくらいである。
- (×) 20. 女物長着の袖の柄は右も左も後ろにポイントを置くとよい。
- (×) 21. 単衣羽織の鉄砲付をする場合、前後裾を付けてから、衿を付ける。
- (○) 22. 一反の反物から羽織を二枚作るとき、前身頃から衿を取る場合は、背縫いが深くなるので、必ず、裾を測ってから裁つべきである。
- (×) 23. 女物羽織の袖丈は、長着の上に着るので、袖丈は長くする。
- (×) 24. 道行コートはフォーマルなので、寒いときはもちろん、どんな時でも脱ぐ必要はない。
- (○) 25. 袷道行コートの要尺は並幅で10mあればできる。
- (×) 26. 一般的な道行コートの縦衿下がり、胸明寸法は同じである。
- (×) 27. 訪問着を着用するときは必ず羽織を着る。
- (○) 28. 鯨小紋のきものは、紋を付ければ略礼装のきものになる。
- (○) 29. 女子の小紋の着物に袴を付けると礼装になる。
- (×) 30. 草木染めは花・草・樹木などの模様を染め出したものである。
- (×) 31. ポリエステル・アクリル・レーヨンはいずれも合成繊維である。
- (×) 32. 色の三原色とは赤・緑・青紫である。
- (○) 33. 火傷をしてしまった場合、一般的に局部を水で冷やすのがふつうである。
- (○) 34. 女物長着の裾廻しが短尺物の場合、前裾布から袖口布を取る場合がある。
- (×) 35. 日本における家庭用電源は、100Vを使用している。10A(アンペア)コンセントで、次の3つずつの電熱器を使用することができる。
①150W+600W+800W ②300W×3 ③150W×2+500W